

本時の研究主題	多くの詩を読んだり、視写したり、音読する活動を通して、詩に親しむ態度を育てる 授業展開の工夫 ～ことばあそびシアター発表会を通して～
---------	---

1 単元名 詩を作ろう

2 単元の目標

- 経験したことを短い詩に表そうとする。(国語への関心・意欲・態度)
- 経験したことから書く題材を決め、短い詩を書くことができる。(書くこと)
- 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気づき、詩の中で適切に使うことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・ 経験したことを短い詩に表そうとしている。	・ 必要な事柄を集めて、経験したことを詩に表している。	・ 心の動きを的確に表す言葉を探して、詩の創作に生かそうとしている。

4 指導にあたって

本教材は、詩人や児童が作った詩を読んで味わったり、自分で作ったりする活動を通して詩に親しみ、その楽しさにふれる活動を行うことをねらいとした教材である。指導事項としては、「ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること」に関わっている。教科書所収の詩はどれも耳に心地よく響き、心に潤いを与えてくれる詩である。それらの詩に接して、児童はより近しさと親しさを感じ、自分でも作ってみたいと感じさせるものである。

これまでに児童は、ものの見方や感じ方を豊かにする経験として、1年下巻「知らせたいな、見せたいな」で広く学校生活全般の場で、生き物や物事について発見したり、伝えたりする経験をしてきている。

「きせつのことば」では、子ども歳時記というような季節を感じる様々な風物に目を向け、それをカードにしたり、季節を感じる詩を味わったりする経験をしている。2年上巻では、声に出してよもう「大きなあれ」で詩を音読し、繰り返しの表現や呼びかけの表現など、詩のリズムにふれている。しかし、まだ様子から言葉を連想する力が不十分であり、三行詩などの言葉の組み合わせなど、創作の時には、個別の支援が必要とされる。語彙を増やし、言葉の感性を磨くために、詩の種になる言葉集めやことば遊びなどを積極的に取り入れる必要性がある。

本単元では、より詩を身近に感じ楽しく活動するために、はじめに「ことばあそびシアター発表会」をしようと銘打ち、さまざまな言葉遊び歌や教科書の三行詩を読む活動を通して、おもしろかった詩を音読したり、視写したりする活動を取り入れていきたい。また、楽しいことば遊びに接することで、詩のもつリズムを体感し、発表者と聞き手が双方向に楽しめる参加型の発表会を実施していきたい。詩の創作は二年生にとっては、難しい言語活動となるので、集めた言葉の中から児童が楽しく詩の創作に携われるよう工夫し、学習活動を展開していきたい。そして、児童が収集し、創作した詩はアンソロジーとして作品に残していきたいと考える。

5 指導と評価の計画(6時間取り扱い) ◎は全員の評価 ○はそれを補完する評価

第1次 四編の詩を読み、それぞれの詩の特性や表現の工夫に気づく。・・・・・・1時間

次時	学習内容・活動	関	書	言	観点別評価規準
2	1 いろいろな種類のことばあそびを読む。	◎			いろいろな種類のことばあそびを読もうとしている。
	2 ことばあそびシアター発表会のために、好きなことばあそびの詩を視写して、アンソロジーにまとめる。(本時)		◎	○	ことばあそびシアター発表会のために、好きなことばあそびの詩を視写して、アンソロジーにまとめている。
	3 表現を工夫して詩に書く。		◎		表現を工夫して詩に書いている。
	4 詩を読み合い、友達の詩の表現のよさについて伝え合う。	◎			詩を読み合い、友達の詩の表現のよさについて伝え合おうとしている。

第3次 ことばあそびシアター発表会を行い、友達とことばあそびを楽しむ。・・・・・・1時間

6 本時の学習

(1) 目標

- ことばあそびシアター発表会のために、すきなことばあそびの詩を視写して、アンソロジーにまとめることができる。(書くこと)

(2) 準備・資料

詩の資料(わらべうた, 絵描きうた, かぞえうた, 早口ことば, あいうえおのうたなど)

詩のたねカード(児童), 詩のたからばこ, アンソロジー用カード(児童用), 詩の記入用紙,

(3) 「学びのきざし」との関連

P4 子どもが目を輝かせるような学習課題(学習課題の設定)

(4) 展開

学習内容・活動 (形態)	指導上の留意点・評価
<p>1 本時の学習課題を確認する。(全体)</p> <p>◎ ことばあそび(詩)シアターの発表会をひらくじゅんぴをしよう。</p> <p>(1) 学習の流れを確かめる。</p> <p>ア いろいろな言葉あそびの詩からどんな詩を選ぶか考える。(2~3編程度)</p> <p>いろいろな言葉あそび(詩)</p> <p>① わらべうた ② 絵描きうた ③ かぞえうた ④ 早口ことば ⑤ あいうえおのうた</p> <p>イ 好きなことばあそびの詩を選んで視写しアンソロジーにまとめる。</p> <p>2 すきなことばあそびの詩を選び, 視写する。</p> <p>(1) 選んだ詩に付箋をはる。(個別)</p> <p>(2) アンソロジー用紙に選んだ詩を視写する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ていねいに用紙に視写をする。 ・ 選んだ理由を簡単に書いておく。 <p>(3) 選んだ詩を音読する。</p> <p>ア 楽しく音読することができる。</p> <p>イ リズムよく音読することができる。</p> <p>ウ 聞き手が楽しくなるように音読する。</p> <p>3 グループで交流をする。(グループ)</p> <p>(1) 選んだ詩を紹介する。(音読)</p> <p>(2) おもしろいところ・よかったところを発表しあう。</p> <p>4 学習をふりかえり, 言葉遊びのおもしろさや気づいたことを発表する。(個別)</p> <p>＜振り返りの観点＞</p> <p>ア ことばあそびの詩のおもしろさを感じられたか。</p> <p>イ いろいろな言葉あそびの詩から詩を選ぶことができたか。</p> <p>ウ すきなことばあそびの詩を選んで視写できたか。</p> <p>5 次時の活動を知る。(全体)</p> <p>ことば遊びの詩をつくろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時において, ことばあそびシアターで発表する詩を選ぶ活動を行い, 本時は, その中からおもしろい詩を選び書き写す活動を行うことを知らせ, 学習意欲を高める。 ・ 次の言葉遊びの詩を簡単に紹介し, 学習の見通しを立たせる。 <p>＜いろいろな言葉あそび(詩)＞</p> <p>① わらべうた ② 絵描きうた ③ かぞえうた ④ 早口ことば ⑤ あいうえおのうた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 詩をたくさん選べる児童には, 2~3編以上選んでもよいことを伝え称賛する。詩がなかなか選べない児童は, おもしろそうな詩を選ぶよう助言する。 ・ 詩を選んだら付箋紙をはり, アンソロジーの用紙に丁寧に視写するよう伝える。 ・ 選んだ詩には, 選んだ理由を簡単に書くように助言する。 ・ 詩を選び視写ができたなら, 次の観点に気を付けて音読するように伝える。 <p>＜音読の観点＞</p> <p>ア 楽しく音読することができる。</p> <p>イ リズムよく音読することができる。</p> <p>ウ 聞き手が楽しくなるように音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音読する際はペアで行い, 聞き手を意識して音読できるように支援する。 ・ 学習の仕上げとして, グループで選んだ詩を紹介しあい, お互いの詩を楽しむことができるようにする。 ・ 詩のよさを感じるために, 友達の選んだ詩のおもしろいところ等を発表し, グループで共有することができるようにする。 <p>評</p> <p>ことばあそびシアター発表会のために, すきなことばあそびの詩を視写して, アンソロジーにまとめている。</p> <p>(書く能力) (ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 詩のたからばこ(アンソロジー用紙)にたくさんかけた児童には, 称賛をする。 ・ 学習の振り返りには, 3つの観点を明示し, それに即して振り返りができるようにする。 ・ 次時は, 本時の詩集めを参考にして, 自分で詩を書く活動を行うことを知らせ, 次時への関心を高められるようにする。